

異言語、異文化の文学における 翻訳者の表現を研究



文化創造学部助教授
ベヴァリー・カレン

- 【学歴】
1983年5月 プリティッシュ・コロンビア大学大学院英文学専攻修士課程修了(カナダ)
2001年7月 マドック大学大学院英文学比較文学専攻入学学位審査中(オーストラリア)
- 【職歴】
1988年4月 愛知淑徳短期大学講師(～1994年3月)
1990年5月 オックスフォード大学出版局研究編集者(現在に至る)
1996年4月 愛知教育大学外国語学部兼任講師(英米文学特殊講義担当)
(～1999年3月)
1996年4月 愛知淑徳短期大学英米語学教科助教授(～2000年3月)
2000年4月 愛知淑徳大学文化創造学部多元文化専攻助教授(現在に至る)

カレン先生はバンクーバーの大学院卒業後、仕事をしながら研究を続けていきましたが、1986年に英語教育のジャーナルの編集のため来日。その頃から文学における翻訳者の表現に関心を持ち、現在は異言語と異文化の翻訳メディア・トランスレーションを専門としています。最近では特に演劇の翻訳に注目しているそうです。

翻訳者は黒子的なイメージがありますが、自ら主張する「アクティブ翻訳者に興味がある」とのこと。

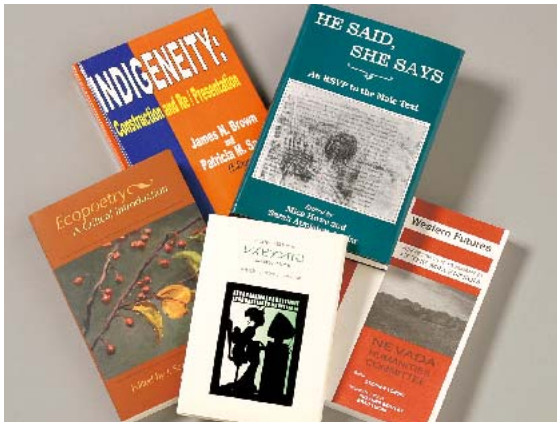
4年前にはオーストラリアの大学院に入学。ディスタンス・ラーニング(遠隔教育)でカナダとオーストラリア文学の翻訳者をテーマとする論文を書き上げました。昨年11月にはイギリス・マンチェスターの翻訳研究大会で論文を発表。

「欧米の翻訳研究者の間では、西洋に比べてアジアの翻訳理論はあまり知られていませんが、実際はアジアには多くの翻訳活動があります。欧米の翻訳研究者がアジアの翻訳理論の知識を得れば、西洋の翻訳理論の幅がさらに広がると思います」とのことでした。

経 済の世界における言葉の翻訳というのには長い歴史があるが、情報や知識を世界中で瞬時に交換できる「グローバル・コミュニケーション」が可能になった現代では、いま新たに翻訳の役割が求められるようになってきた。すなわち、地球規模の貿易には何も形のある商品だけに限らず、言語や文化といったものの流通が存在するのだ。特に、癒しの時代といわれる現代では、自己の存在理由であるアイデンティティを求める傾向が強くなり、文学においてグローバルな流動性とアイデンティティを求める傾向がますます明白になってきている。そこで、私はこの純文学における翻訳者のはたす役割について最近関心を抱き研究を行っている。特に、英語で書かれた作品における翻訳者に注目している。つまり、世界中で英語はグローバルな言語になっているが、その一方で英語だけしか話せないネイティブスピーカーというの、だんだんと言語の少数派になっており、二つの言語だけ話せればいいという時代ではもつなくなってきたのだ。

翻 訳の世界にはグローバルな影響も認められるが私は、国内における翻訳の影響に関する研究を行っている。二つはジェンダーにおける翻訳の研究であり、もう二つは人類

における翻訳の研究であるが、いずれもマイノリティ(少数派)の問題である。ジェンダー研究では、西洋の「レスビアン」に関する作品の日本における翻訳についての歴史を研究している。この歴史を調べることで翻訳者の目的によって翻訳の方法がずいぶん違うことがわかる。例えば、「レスビアン」という単語はカタカナで書かれた外来語だが、言葉だけではなく、「レスビアン」という「実体」そのものも外国的な現像なのである。しかし、現代では、翻訳活動において日本人の「レスビアン」という言葉からは、ローカルレスビアン・アイデンティティ(地域特有のレスビアン・アイデンティティ)という言葉を想起させることがある。この課題に関して、From the Wall of Loneliness to the akari-rezuban: Western T Translations and Japanese Lesbian Identities」という共同執筆の論文に書き、それが、Routledge出版社の「Genders, Transgressions and Sexualities in Japan」の論集に出る予定だが、論文では、1990年代の頃に青鞥社が「bluestocking」という単語を選んだことの意義が何であるかについて最初に調べた。平塚らいてうと共にレスビアン運動の象徴となったのは、1950年代のこのチエホフの翻訳者である湯浅芳子である。現在、東京で「レスビアン小説翻訳ワークショップ」の活動が行われているが、そこに、新たに翻訳とレスビアンというリンクが二つ加えられた。「ミニモティ・ワークショップ」の共同翻訳活動を行っていく中で、西洋の孤独で寂しいレスビアンという表現の代わりに、「ミニモティ」がある、明るいレ



【最近の主要著作・研究業績リスト】

訳書 論文(集論)

- 「レズビアン日記」国文社 2000年(共訳書)
- Eco Poetry: A Critical Introduction. 2000 ~
- Indigeneity: Construction and Re/Presentation
- He said, She Says: An RSVP to the Male Text. Sara Appleton Aguilar and Mica Howe. eds. Madison, NJ, Fairleigh Dickinson University Press. 2001(単著図書論文)
- Western Futures: Perspectives on the Humanities at the Millennium

「スピアン」という表現が生まれた。

翻 訳と性の少数派に関する研究に加えて、人類の少数民族に

関する翻訳についても研究をしている。

具体的には、ネイティブ俳優以外での先住民戯曲の上演が可能かという問題について調べている。2001年にカナダの先住民劇作家トワン・ハイウェイの『ドライリップスなんてカプスケイシングに追い払っちゃえ』(Dry Lips Oughta Move to Kapuskasing)という演劇が日本語に翻訳され、東京で日本人の劇団【楽天団】によって上演された。そのあと、2002年と2004年の2月にハイウェイの最初の作品『居

留地姉妹』の演劇も上演された。そして、楽天団はオーストラリア戯曲も上演した。例えば、演出家・劇作家ウェスリー・イノックの『嘆きの七段階』(Stages of Grieving)とジーン・ハリソンの『ストール』が上演されたが、日本語で日本人の俳優によって土着民戯曲(Indigenous drama)を上演するということとは実に刺激的な決定であった。70年代から、文化的な専有を敬遠するために、カナダ、オーストラリアで先住民戯曲は必ず先住民俳優によって上演しなければならなかった。ウェスリー・イノックは、「アボリジニ戯曲の上演では、戯曲の政治的なメッセージ

は体に書かれている。仮に日本人の俳優がアボリジニ戯曲を上演したら、アボリジニの体で表現されるメッセージを消さしてしまうことになるだろう」と言った。しかしハイウェイは、「先住民戯曲を上演することをネイティブ俳優だけに許可すれば、ネイティブの戯曲の将来は死ぬ運命だ」と反対した。私は、翻訳や上演を調べた結果、両方の劇作家の意見に賛成することになった。2004年11月末にマンチエスター翻訳研究センターでこの問題に関する論文を発表するが、そのとき、はたして観客はどちらの意見に賛成するだろうかということが楽しみである。

留地姉妹』の演劇も上演された。そして、楽天団はオーストラリア戯曲も上演した。例えば、演出家・劇作家ウェスリー・イノックの『嘆きの七段階』(Stages of Grieving)とジーン・ハリソンの『ストール』が上演されたが、日本語で日本人の俳優によって土着民戯曲(Indigenous drama)を上演するということとは実に刺激的な決定であった。70年代から、文化的な専有を敬遠するために、カナダ、オーストラリアで先住民戯曲は必ず先住民俳優によって上演しなければならなかった。ウェスリー・イノックは、「アボリジニ戯曲の上演では、戯曲の政治的なメッセージ

は体に書かれている。仮に日本人の俳優がアボリジニ戯曲を上演したら、アボリジニの体で表現されるメッセージを消さしてしまうことになるだろう」と言った。しかしハイウェイは、「先住民戯曲を上演することをネイティブ俳優だけに許可すれば、ネイティブの戯曲の将来は死ぬ運命だ」と反対した。私は、翻訳や上演を調べた結果、両方の劇作家の意見に賛成することになった。2004年11月末にマンチエスター翻訳研究センターでこの問題に関する論文を発表するが、そのとき、はたして観客はどちらの意見に賛成するだろうかということが楽しみである。